

Round 4



Outline

燃料リストラクター制限で予選は最後尾となるも、決勝で粘り強く追いついて、10位入賞を果たす。

2024 AUTOBACS SUPER GT Round4 FUJI GT 350km RACE が、8月3日～4日に静岡県富士スピードウェイで行われた。#37 Deloitte TOM'S GR Supra（笹原右京 / ジュリアーノ・アレジ）は、燃料リストラクター制限の影響もあって予選15番手に終わるが、決勝レースでは粘り強く追いついて、最後はアレジがライバルとのバトルの末、残り2周で10位に浮上。見事ポイントを獲得した。



Information

circuit	富士スピードウェイ（静岡県小山町）	
date	8/3 sat	8/4 sun
weather	晴れ	晴れ
spectators	52,200人 (sat 20,600人 + sun 31,600人)	

FUJI

Result

37

Car



Deloitte TOM'S GR Supra

Driver


 笹原 右京
Ukyo Sasahara

 ジュリアーノ・アレジ
Giuliano Alesi

予選 15位

決勝 10位

Driver Rank Team Rank

4位

28points

4位

36points

予選 Q1 笹原 : P15 / 1'28.936

予選 Q2 アレジ : P15 / 1'29.307

決勝 ファステスト 笹原 : 1'31.456

ラップタイム アレジ : 1'31.318

予選

●天候：晴れ ●気温：33℃ ●路面温度：54℃



Qualifying detail

**前戦で優勝を果たし、
燃料リストラクター制限が入る。
僅差となった予選では15番手に終わる。**

前回の Round3 鈴鹿で今季初優勝を飾った 37 号車。今大会では成績に応じて課せられるサクセスウェイトが 54kg となり、燃料リストラクター制限が入ることとなった。昨年から 37 号車で戦う笹原とアレジにとっては初めて経験する状況下で、上位を目指す新しいチャレンジが始まった。

この Round4 は全体のタイム差が接近しており、午前中の公式練習においてトップから 0.8 秒差の 1 分 29 秒 532 のベストタイムを記録するが、僅差で 15 番手となった。

路面温度が 50℃ を超えるコンディションで始まった公式予選では、笹原が Q1 を担当。コース上の混雑も影響し、1 分 28 秒 936 で 15 番手タイムに終わる。続いてアレジが担当した Q2 でも、わずかの差でライバルの前に出ることができず、1 分 29 秒 307 で 15 番手という結果になった。総合順位も最後尾となったが、決勝レースでの追い上げを目指し、準備が進められた。

After Qualifying



**他車に引かなかったのが
大きく影響しました。**

ドライバー 笹原 右京

クルマは予選に向けて良くなった印象があったので、クリアな状態で走れなかったのが悔しいです。燃料リストラクター制限が入っているので簡単ではないですが、1 ポイントでも多く獲れるように頑張ります。



**決勝ペースは良さそうなので、
しっかり追いたいです。**

ドライバー ジュリアーノ・アレジ

今回は燃料リストラクター制限の影響もありましたし、クルマのバランスも完璧ではなかった部分がありました。予選は苦しい結果になりましたけど、決勝でのロングランは調子が良さそうなので、1 つでも上の順位を目指したいです。

TGR TEAM Deloitte TOM'S 37



**15 位は悔しいですが、
決して遅れているわけではないです。**

チーム監督 ミハエル・クルム

15 位は悔しい結果ではありますが、サクセスウェイトが重いクルマは後ろの順位ですし、タイム差も大きくはないので、そこまで悲観はしていません。決勝に向けて微調整をして、何とんでもポイントを獲りたいと思っています。



**決勝ペースの手応えはあるので、
コツコツと追いたいです。**

レースエンジニア 大立 健太

公式練習の序盤は悪くなかったのですが、気温や路面温度が上がり始めてから、クルマを合わせ込むのが難しくなった印象がありました。決勝のロングランに関しては比較的良さそうな感じはありますが、まだ課題も残っているので、そこを修正して臨みたいです。

決勝

●天候：晴れ ●気温：35℃ ●路面温度：56℃



Race detail

前半の笹原が粘り強く追い上げ、後半のアレジが2台をオーバーテイク。残り2周で10位に浮上し1ポイント獲得。

気温 35℃と今年一番の暑さで始まった Round4 の決勝レース。今回は 350kmの距離で争われ、1度のピットストップで走り切ることになる。最後尾の 15 番手から追い上げを目指す 37 号車は、笹原がスタートを担当した。序盤の混戦でポジションを 2 つ上げるが、7 周目に GT300 クラスとの混走で行き場を失い、コース脇に設置されている減速バンプで一瞬ジャンプする場面があった。幸いマシンに異常は確認されず、笹原はレースを続行。ライバルが早めにピットストップを済ませるなか、順調なペースで周回を重ねていき、39 周目にピットインしてアレジに交代した。

12 番手でコースに復帰すると、アレジはチームベストのタイムを更新しながら前を走るライバルに追いついていき、47 周目に 1 台をパス。さらにもう 1 台のライバルに接近し、追い抜くチャンスを探った。燃料リストラクター制限でストレートでのバトルが不利な状況にあるなか、アレジは諦めずに仕掛け続け、残り 2 周の 13 コーナーで逆転。そのままチェッカーを受け、10 位入賞を果たした。

After Race



自分がやるべき仕事は、出来たレースだったと思います。

ドライバー 笹原 右京

15位スタートからコツコツ追い上げて、ポイントを獲得できて良かったです。自分のステイントは後半勝負のために、とにかく耐えることに徹して、燃費を稼ぐことを意識して走りました。そうして組み立てた状況を、最後にジュリアーノが遺憾なく発揮してくれました。



自分のステイント中はめっちゃくちゃ集中していました。

ドライバー ジュリアーノ・アレジ

難しいレースウィークでしたが、決勝では全てをまとめて1ポイントを獲得できました。ここでポイントを獲得できたことは大きいと思います。ストレートでは苦しいので、セクター3やコーナーの区間でどう攻略するかをずっと考えていました。

TGR TEAM Deloitte TOM'S 37



最後のジュリアーノは、素晴らしかったです。

チーム監督 ミハエル・クルム

予選では最後尾になって苦しい状況でしたが、そこから皆で協力して1ポイントを獲得することができて本当に嬉しいです。同じ TOM'S の 36 号車も素晴らしい追い上げでしたが、そこに我々も追いつけるようにステップバイステップで頑張りたいです。



及第点の結果は残せたと思います。

レースエンジニア 大立 健太

序盤にジャンプした時は、クルマに何かトラブルが発生するのではないかとヒヤヒヤしましたが、異常はみられませんでした。後半まで引っ張る作戦で、途中はクリアなところで走ることができましたが、ライバルも手強かったです。及第点の結果は残せたと思います。

Summary



チームオーナー
館 信秀

37号車は燃料リストラクター制限が入っての初戦でしたが、最後はジュリアーノがぴったりとライバルを追い抜いてきてくれたのは良かったです。ちゃんとクルマのセッティングが決まれば、彼は速さを発揮してくれるのは分かっていたし、何より前戦で優勝して、本人としても吹っ切れたところがあるのだと思います。みんなが良い仕事をしてくれました。次戦もたくさんの応援をよろしくお願いいたします。

Race Scene



Deloitte.

BINGO

